



安全データシート

作成日：2024 年 12 月 13 日

更新日：2024 年 12 月 13 日

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称：	アルコノックス
製品コード：	AN-4P, AN-100P
供給者の会社名：	(販売業者) メドライン・ジャパン合同会社
住所：	〒112-0002 東京都文京区小石川 1-4-1 住友不動産後樂園ビル 15F
電話番号：	03-5842-8890
供給者の会社名：	(製造業者) アルコノックス社 Alconox, LLC
住所：	30 Glenn St, Suite 309 White Plains, NY 10603 USA 914-948-4040
Email：	cleaning@alconox.com
推奨用途：	洗浄剤、洗剤
使用上の制限：	特に指定がない限り、他の洗剤と混ぜないこと

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分4
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
環境に対する有害性	
水生環境有害性長期(慢性)	区分3

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない、分類対象外、分類できないのいずれかに該当する。

GHS ラベル要素



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H302	飲み込むと有毒
H315	皮膚刺激
H319	強い眼刺激
H412	長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P 280)

応急措置

特別な処置が必要である（このラベルの応急措置の説明を見よ）。
(P321)
口をすすぐこと。(P330)
飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301 + P312)
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。(P302 + P352)
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332 + P313)
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337 + P313)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362 + P364)
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305 + P351 + P338)

保管
廃棄

内容物／容器を廃棄物処理法及び地方自治体の条例に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別： 混合物

化学名または一般名

化学名または一般名	濃度または濃度範囲	(化審法)	(安衛法)	CAS RN®
ピロリン酸四ナトリウム	2 ～ 16%	既存	既存	7722-88-5
アルキル（C＝10～16）ベンゼンスルホン酸のナトリウム塩	10 ～ 30%	3-1949	既存	68081-81-2
炭酸ナトリウム	7 ～ 13%	1-164	既存	497-19-8
ドデシル硫酸ナトリウム	0.5 ～ 1.5%	2-1679	既存	151-21-3
エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム	0.1 ～ 1%	2-1265	既存	64-02-8
重炭酸ナトリウム	40 ～ 45%	既存	既存	144-55-8

4. 応急措置

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
症状がある場合は直ちに医師の診察／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合： 直ちに多量の水と石鹼で 15 分以上洗うこと。
皮膚刺激が生じ、持続する場合：医師の診察／手当てを受けること。

眼に入った場合： 直ちに多量の水で洗い流し、まぶたの下も最低 15 分間洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も

	洗浄を続けること。 大きく開けておくこと。患部をこすらないこと。刺激が生じ、持続する場合は医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	無理に吐かせてはいけない。口をすすぐこと。 意識のない人には絶対に口から何も与えないこと。医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性 症状の最も重要な兆候症状：	目の充血と流涙を引き起こすことがある。灼熱感。
応急措置をする者の 保護に必要な注意事項：	皮膚、目、衣服との接触を避けること。個人用保護衣を着用すること（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）。
医師に対する特別な注意事項：	症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：	粉末消火剤、噴霧水、泡消火剤、乾燥砂、炭酸ガス 現地の状況や周囲の環境に適した消火剤を使用する。
使ってはならない消火剤：	棒状注水
特有の危険障害性：	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガス、煙霧を発生するおそれがある。 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。 有害燃焼生成物：ナトリウム酸化物、炭素酸化物、硫黄酸化物、リン酸化物、窒素酸化物（NOx）
特有の消火方法：	消火活動は風上から行う。 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置：	自給式呼吸器（SCBA）眼や皮膚を保護する耐熱性の完全防護服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護具及び緊急時措置：	作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 全ての着火源、熱源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。 風上から作業し、風下の人は待避させる。
環境に対する注意事項：	漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込め及び
浄化の方法及び機材：

漏洩したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

二次災害の防止策：

環境規制に従って汚染された物体及び場所をよく洗浄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術的対策：

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項：

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
粉じん／煙／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は手をよく洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。
環境への放出を避けること。

接触回避：

『10. 安定性及び反応性』を参照。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

衛生対策：

指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

保管：

安全な保管条件：

施錠して保管すること。
換気の良い冷暗所に密閉して保管すること。

安全な容器包装材料：

情報なし。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名または一般名	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
非該当			

設備対策：

ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。
高熱工程で粉じん、ヒュームが発生する場合は、換気装置を設置する。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具：

本製品は不浸透性保護具着用が義務付けられている

呼吸用保護具：

リスクアセスメントに基づいた適切な保護マスクや呼吸用保護具

手の保護具：

リスクアセスメントに基づいた適切な保護手袋
ニトリルゴム
不浸透性手袋等の適切な手袋

眼、顔面の保護具：

リスクアセスメントに基づいた適切な保護めがね
飛沫が発生する可能性がある場合は、サイドシールド付きの安全眼鏡

皮膚及び身体の保護具：

リスクアセスメントに基づいた適切な保護衣（長袖作業服など）

特別な注意事項：

粉塵の吸入を避けること。皮膚、目、衣服への接触を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

形状：	固体
物理状態：	粉末
色：	オフホワイト
臭い：	情報なし
融点/凝固点：	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲：	データなし
可燃性：	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限界：	データなし
引火点：	データなし
自然発火点：	データなし
分解温度：	データなし
pH：	9.5
動粘性率：	データなし
溶解度：	データなし
n-オクタノール/水分配係数：	データなし
蒸気圧：	データなし
密度または相対密度：	データなし
相対ガス密度：	データなし
粒子特性：	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性：	常温においては反応性はない。
化学的安定性：	正しい取扱いや保管では安定。
危険有害反応可能性：	通常の処理ではなし。
避けるべき条件：	混触危険物質との接触および加熱。
混触危険物質：	強酸化剤 強酸 強アルカリ
危険有害な分解生成物：	熱分解により、刺激性のガスや上記が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)：	区分 4 メーカーSDS(2023/8/15 発行時点情報)に準じて選択
急性毒性(経皮)：	分類できない 炭酸ナトリウム (13%) : 区分に該当しないため、計算対象外とした ドデシル硫酸ナトリウム (1.5%) : $1.5 / 200 = 0.0075$ (出典 : NITE) 毒性値計算の合計 = $0.0075 = 0.0075$ $ATE_{mix} = (100 - 47) / 0.0075 = 7066.6667$ ATE_{mix} の計算値が $7066.6667 > 5000$ であるため、区分に該当しない 加えて、毒性未知成分の合計が $47\% \geq 0.1\%$ であるため、分類できないとした
急性毒性(吸入：気体)：	分類対象外 GHS 定義による気体ではない

急性毒性(吸入：蒸気)：	分類対象外 GHS 定義による気体ではない
急性毒性(吸入：粉じん・ミスト)：	分類できない メーカーSDS(2023/8/15 発行時点情報)に準じて選択
皮膚腐食性・刺激性：	区分 2 メーカーSDS(2023/8/15 発行時点情報)に準じて選択
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分 2A メーカーSDS(2023/8/15 発行時点情報)に準じて選択
呼吸器感作性：	分類できない 製品は、危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない。 成分加算の結果区分に該当しないとなるが、未知成分の合計が 0.1%以上存在するため、分類できない。
皮膚感作性：	分類できない 成分加算の結果区分に該当しないとなるが、未知成分の合計が 0.1%以上存在するため、分類できない。
生殖細胞変異原性：	分類できない 成分加算の結果区分に該当しないとなるが、未知成分の合計が 0.1%以上存在するため、分類できない。
発がん性：	分類できない 成分加算の結果区分に該当しないとなるが、未知成分の合計が 0.1%以上存在するため、分類できない。
生殖毒性：	分類できない 成分加算の結果区分に該当しないとなるが、未知成分の合計が 0.1%以上存在するため、分類できない。
生殖毒性・授乳影響：	分類できない 成分加算の結果区分に該当しないとなるが、未知成分の合計が 0.1%以上存在するため、分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	分類できない メーカーSDS(2023/8/15 発行時点情報)に準じて選択
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	分類できない ドデシル硫酸ナトリウム（肝臓）は、危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 区分未知成分が 1%以上存在するため、区分の有無にかかわらず、分類できないとした。 以下、各物質ごとの区分情報 区分 2: ドデシル硫酸ナトリウム, 含有率 1.5%, 臓器：肝臓（出典: NITE） 分類できない: ピロリン酸四ナトリウム, 含有率 16%（出典: NITE） 分類できない: アルキル（C＝10～16）ベンゼンスルホン酸のナトリウム塩, 含有率 30%（出典: NITE） 分類できない: 炭酸ナトリウム, 含有率 13%（出典: NITE） 分類できない: エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム, 含有率 1%（出典: NITE）
誤えん有害性：	分類できない データ不足のため、分類できないとした。

12. 環境影響情報

水生環境有害性短期（急性）：	分類できない メーカーSDS(2023/8/15 発行時点情報)に準じて選択
水生環境有害性短期（慢性）：	区分 3 メーカーSDS(2023/8/15 発行時点情報)に準じて選択

生態毒性：	長期継続的影響により水生生物に有害
残留性・分解性：	データなし
生体蓄積性：	[成分データ]ドデシル硫酸ナトリウム, log Kow = 1.6
土壌中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	分類できない 分類できない 本成分はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	廃棄においては、廃掃法及び関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装：	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制：	データなし
国内規制：	
陸上規制情報：	消防法の規定に従う
海上規制情報：	船舶安全法の規定に従う
航空規制情報：	航空法の規定に従う
特別の安全対策：	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法：	名称等を表示すべき危険物及び有害物 ・オキシビスホスホン酸四ナトリウム 規則別表第 2 の 341（令和 7 年 4 月 1 日施行）・令別表第 9 の 111（令和 7 年 3 月 31 日以前施行） ・炭酸ナトリウム 規則別表第 2 の 1189（令和 7 年 4 月 1 日施行） ・ドデシル硫酸ナトリウム 規則別表第 2 の 1324（令和 7 年 4 月 1 日施行） ・エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム 規則別表第 2 の 275（令和 8 年 4 月 1 日施行） 名称等を通知すべき危険物及び有害物 ・オキシビスホスホン酸四ナトリウム 規則別表第 2 の 341（令和 7 年 4 月 1 日施行）・令別表第 9 の 111（令和 7 年 3 月 31 日以前施行） ・炭酸ナトリウム 規則別表第 2 の 1189（令和 7 年 4 月 1 日施行） ・ドデシル硫酸ナトリウム 規則別表第 2 の 1324（令和 7 年 4 月 1 日施行） ・エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム 規則別表第 2 の 275（令和 8 年 4 月 1 日施行）
----------	--

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用
義務物質・皮膚刺激性有害物質

- ・炭酸ナトリウム（令和6年4月1日）
- ・ドデシル硫酸ナトリウム（令和6年4月1日）

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法
(PRTR 法)

第一種指定化学物質

- ・直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。）（1-045）
- ・ドデシル硫酸ナトリウム（1-318）
- ・エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩（1-080）

水質汚濁防止法

指定物質

- ・政令第3条の3第60号 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

消防法

非危険物

化審法

優先評価化学物質

- ・アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム（アルキルは炭素数が10から14までの直鎖アルカンの基に限る。）
- ・ナトリウム＝アルキル（C＝8～18）＝スルファート
- ・2，2'，2"，2'''－（エタン－1，2－ジイルジニトリロ）四酢酸のナトリウム塩

16. その他の情報

参考文献：

JIS Z 7252:2019
JIS Z 7253:2019
事業者向け GHS 分類ガイダンス(令和元年,経済産業省)
化学物質総合情報提供システム(CHRIP) (NITE)
国際化学物質安全性カード（International Chemical Safety Cards (ICSC) 2020 版危険物輸送のための緊急時応急措置指針 容器イエローカードへの適用
危険物船舶運送及び貯蔵規則（21 訂版）国土交通省海事局検査測度課 監修
製造元メーカー提供資料 SDS 2023 年 8 月 15 日発行

その他：

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。
なお、新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
また、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものです。
全ての化学製品は、未知の有害性があり得る為、取り扱いには細心の注意が必要です。
ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。